

—F3初優勝の勝因をどう分析していますか？

三浦：練習でタイムが全然出せなかったのですが、予選～土曜のレース中も少しづつセッティングを変えていったところ、日曜の第2戦ではセットが決まって、クルマを信頼して走れました。クルマが決まったことが大きかったです。

—具体的にどういったセッティング指示を出されましたか。

三浦：F3-Nのクルマは、レギュレーションでフロントのダウンフォースが少なく決められています。それもあって、アンダーステア気味だったので、エンジニアに伝えていっしょに改善していました。

—セッティング指示に関して、これまで自分の思い通りにいくことは多かったですか？

三浦：F3に上がって、クルマの動きを感じる前に、自分の感覚が定まらず、自分のせいで曲がらないのか、クルマに問題があるのか、そういういたレベルでしたね。正確さはまだまだ。

—優勝後、ライバルの反応はいかがでしたか？

三浦：たぶん眼中にないというか、まったく意識もされてなかつたと思うんです。でも優勝後、「女子に負けるのはすごく悔しいもの」という言葉が聞こえてきて……。私はそこまで感じませんでした。あ、でも、よく話していたのに、ちょっと冷たくなった？ みたいのは（笑）。

—モータースポーツを始められたきっかけは何だったのでしょうか？

三浦：父がレース好きで、兄がカートを始めました。私も毎週のようにサーキットに行くうちに『乗りたいな』と思い父に頼みました。12歳でした。父の手作りカートに乗っていました。

—06～10年まで5年間にわたって、

RotaxMaxのシニアクラスに参戦されていますね。どのような目標を持っていましたか？

三浦：本当は全日本選手権に出たかったんですが、資金的なことがあったので、参戦コストが抑えられて、台数が多くてレベルも高い、世界中で開催されていたRotaxで走り続けました。

—Rotaxではどんな苦労がありましたか？

三浦：当時は50～60台と参戦台数が多くて、ぶつかるともう終わり。速さ以上にコントロール能力が問われる環境で、そういう意味では全日本と比べても難しかったと思っています。

—ドライビング面ではどうでしょう。

三浦：よくいえばタイヤに優しい、悪くいえば限界を超すことができない走り方なんです。限界を超えてコントロールできる能力があれば、タイヤも早く温まって早い時期からブッシュできるようになります。今でも前半ペースがあげられず、抜かれてしまったりしています。

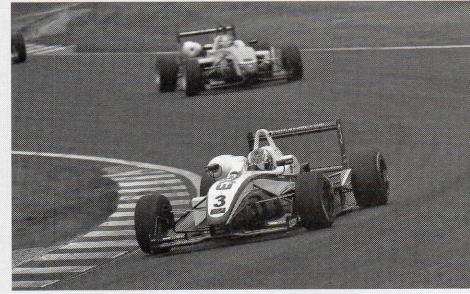
—カートから、スーパーFJ、FCJ、F3に進まれていますが、フォーミュラとの相違点は？

三浦：クルマが大きく重いので、カートのようにクイックには動きません。コーナーを曲がる時フォーミュラでは、ブレーキを踏んでハンドルを切って、その後アクセルを踏むまで待つ時間があるんです。カートにはない点なので待てなくて、慣れるのに1年くらいかかりました。

—フォーミュラでは、当然カート以上に体力が必要になってくると思います。

三浦：首は特別なメニューを組んでいますが、基本は腹筋・背筋・腕立てで、全身鍛えています。ドライビング後にどこか痛む箇所があれば、そこを重点的にトレーニングする感じです。

—脱いだらすごい感じですね（笑）。



1989年11月24日、奈良県出身。01年12歳でカートを始め、その年のSL名阪最終戦でクラス優勝。02年鈴鹿選手権、04年RotaxMax Jr. クラスで腕を磨き、06年にはオーストリア、ベルギーでも経験を積む。5年間のRotaxMaxシニアクラス参戦を経て、11年にスーパーFJ、12年にFCJ、今季F3のF3-Nに参戦し、第2戦で優勝を飾る。平日はエクセディの広報部で働き、休日は実家に帰ってのんびりしたり、トレーニングに励んでいるそう。

三浦：いえいえ、全然まだまだです（笑）。ただ体重はこの2年間で10kg以上増えました。ごっつくなっている。ただのごっつい女……っていうか女じゃないみたい（笑）。

—長く走り続けられる女性ドライバーは少数。

三浦選手がここまで続けてこられた理由は？

三浦：ハコレースに比べ、フォーミュラに女性ドライバーはほとんどいません。やはりネックは体力。どう頑張っても男性には勝てない。だけど、あきらめずにずっとトレーニングを続けていたら、男性にはかなわなくとも、マシンを操るだけの力はつけられると今感じています。サポートしてくれるトレーナーがいたからです。

あとは、家が特別お金持ちではないので、もう辞めないといけない、という状況が何度かありました。でも、そんな時に助けてくれた方々のおかげで今の自分があると思います。特に、フォーミュラへのステップアップを後押ししてくれたエクセディの存在は大きかったです。

—では、5年後はどうなっていきですか？

三浦：5年後は29……理想なんですが30歳までには世界で戦う、というかF1に乗りたい。私のなかではF1だけなので、もしかきらめないといけなくなったら、レースはやっていないかも。それくらいの覚悟でいいと思います。

F3第2戦でクラス優勝を成し遂げて注目度MAX

三浦 愛「30までにF1！」

F3史上初、女性ドライバーとしてクラス優勝

どうしてもルックスに注目が集まりがちだが

実力が備わっていることを示した三浦愛

経歴からトレーニング方法、将来の野望を聞く

Text: auto sport

Photo: 小笠原貴士 (Takashi Ogasawara)

いま輝く
注目の日本人ドライバー

KAREN KASAUCHI
AKITO OGASAWARA
AI MURAI

